

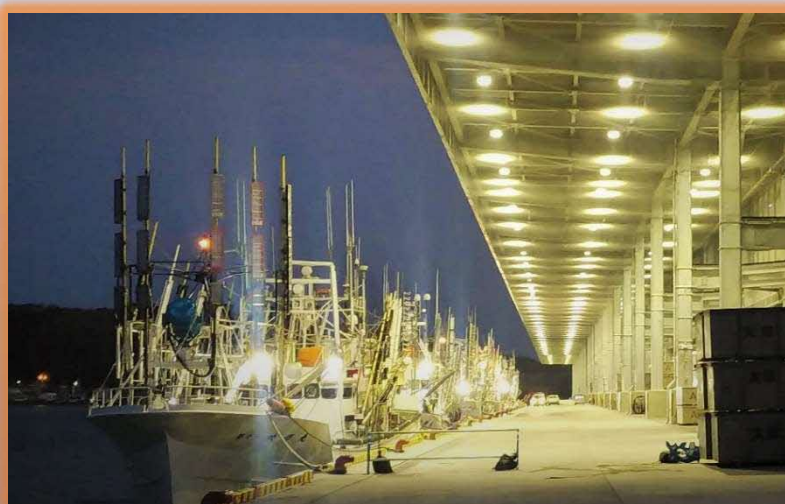


第42回

全国豊かな海づくり大会 北海道大会

守りぬく 光輝く 豊かな海

基本計画書



令和4年3月

第42回全国豊かな海づくり大会
北海道実行委員会

目 次

I 全体概要

1	大会の概要	1
2	北海道の特色	2
3	開催の意義	3
4	基本理念	3
5	基本方針	3

II 大会計画

1	全体計画	4
2	大会会場	5
3	会場配置	6
4	行事計画	8
5	演出計画	10
6	放流魚種	11
7	関連行事	13
8	映像中継計画	14
9	絵画・習字優秀作品御覧	15
10	歓迎レセプション	16
11	大会運営計画	17
12	宿泊輸送等計画	18
13	荒天時等計画	21

III 機運醸成・広報計画

1	機運醸成に向けた取組	22
2	広報事業	24

IV 実施スケジュール

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

全国豊かな海づくり大会は、これまで、天皇皇后両陛下の御臨席のもとに開催されていることから、本大会においても天皇皇后両陛下の御臨席を想定し、基本計画を作成しています。

I 全体概要

1 大会の概要

- **大会名称** 第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会
- **主 催** 豊かな海づくり大会推進委員会^(※)
第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会
- **開催時期** 令和5年(2023年)秋季
- **開催場所**

【式典行事】	厚岸町	厚岸漁港
【海上歓迎・放流行事】	厚岸町	厚岸漁港
【関連行事】	厚岸町	ほか(検討中)

■ 行事内容(予定)

① 式典行事

資源管理や漁場保全等に功績のあった団体の表彰、稚魚等のお手渡し、最優秀作文の発表、漁業者メッセージ、大会決議、大会旗引継 など

② 海上歓迎・放流行事

漁船による海上歓迎パレード、稚魚の放流 など

③ 歓迎レセプション

本道の農林水産物等を豊富に使用した“おもてなし” など

④ 関連行事

大会を記念した絵画・習字等コンクールの入賞作品の展示、本道の水産業や環境保全等の取組の紹介、物産品販売 など

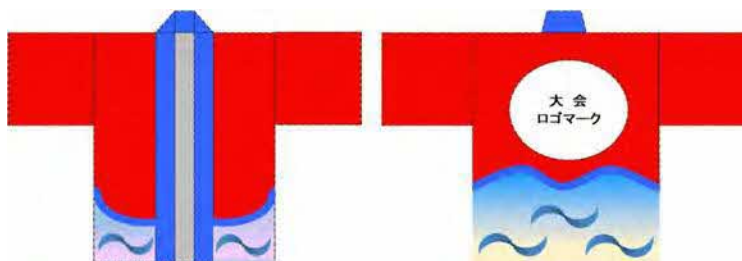
■ 大会テーマ

「 守りぬく 光輝く 豊かな海 」

■ 大会ロゴマーク・コスチュームデザイン



〔大会ロゴマーク〕



〔コスチュームデザイン〕

〔※豊かな海づくり大会推進委員会

大会運営のために中央に設置されている委員会。最高顧問は衆議院議長、会長は全国漁業協同組合連合会代表理事会長が務めている。〕

I 全体概要

2 北海道の特色

(1) 魅力ある多彩な資源

北海道は、それぞれ特性の異なる日本海、太平洋、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山地、広大な平野部、多くの島しょ部、数々の湿原や湖沼などを有し、人々は古くからこの豊かな自然と緊密に結びつきながら、独自の文化と歴史を持ち、狩猟や漁労、採集を中心とする生活を営んでいました。

明治時代には、全国各地からの入植者によって数々の苦難を乗り越えながら開拓が行われたほか、欧米の技術や文化を導入するなど、先人たちの勇気と知恵によって近代化を進め、今日の生活の礎を築いてきました。

近年では、この豊かな自然の恵みを背景に、多様な農林水産業が営まれ、新鮮で豊富な素材を活かした美味しい食、世界自然遺産に登録された知床をはじめ多彩な表情を見せる風景など、地域の魅力ある観光資源によって、国内外から多くの人々が訪れています。

(2) 北海道の水産業

北海道の周辺海域は、北方に広く展開する大陸棚と日本海の武蔵堆などを擁し、海底地形が起伏に富んでいるほか、道東太平洋沖では黒潮と親潮が交錯して潮目がつくられるなど好漁場となっています。

この豊かな恵みを受け、漁業や水産加工業を中心に今日の水産都市や漁村が海岸線に沿って形成されてきました。

漁業生産は、主要魚種である秋サケ、ホタテガイ、コンブを中心に様々な魚種が生産され、数量・金額ともに都道府県別で第1位となっているほか、湖沼や河川では、シジミ、ワカサギなどが生産されています。

一方、近年、海洋環境の変化や漁業者の減少、高齢化等により秋サケ、コンブ、イカ、サンマなどの生産が大幅に減少し漁業経営の悪化を招いています。

水産業を取り巻く環境が大きく変化する中、北海道では漁業生産の早期回復と安定を図るため、新たな増養殖への挑戦と栽培漁業の対象資源の生産回復に向けた取組を推進しています。

【サケ】



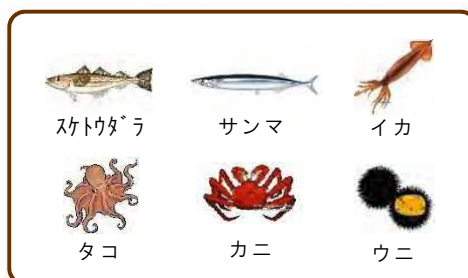
【ホタテ】



《北海道の主な水産物》



【コンブ】



I 全体概要

3 開催意義

北海道において昭和60年以来2度目となる「全国豊かな海づくり大会」を開催することは、世界的に問題となっている海洋プラスチックごみ対策など環境保全に対する道民の意識を高めるとともに、将来にわたって持続的に漁業が行えるよう、増養殖技術の向上や地域資源の有効利用・付加価値向上など、さまざまな取組を通して、豊かな海の恵みを守り次世代につなげる生産者の想いを全国に知ってもらう絶好の機会となります。

また、世界的にも需要が高い道産水産物をはじめとした食や魅力ある地域資源を活かしたイベント、四季折々の自然、独自の文化など「北海道ブランド」を全国にPRし経済の活性化につなげていきます。

4 基本理念

先人たちが守り続けた豊かな海の恵みに感謝し、この大切な財産を次の世代につなげるとともに、栽培漁業や地域資源の利活用など多様な取組を「オール北海道」で推し進め、水産業の持続的な発展と地域の活性化を図ります。

5 基本方針

(1) 豊かな自然の保全と継承

海洋プラスチックごみ対策など環境保全の取組を推進し、豊かな自然の恵みを次の世代につなげていく大会とします。

(2) 地域を支える水産業の発展

漁業生産の早期回復に向け栽培漁業を一層推進するとともに、都市部との多様な交流や連携などにより、水産業の発展と地域の活性化につなげる大会とします。

(3) 北海道ブランドの魅力発信

豊かな自然が育んだ高品質で安全・安心な食などに代表される「北海道ブランド」の魅力を高める大会とします。

(4) 北海道独自の歴史や文化の理解促進

アイヌ文化をはじめ、本道の特色ある歴史や文化への理解をより一層深める大会とします。



海岸清掃



稚魚の放流



国立アイヌ民族博物館
[ウポポイ]

写真提供：(公財)アイヌ民族文化財団

Ⅱ 大会計画

1 全体計画

(1) 基本的な考え方

本道の豊かな海の恵みを守り、次世代につなげる環境保全の取組や栽培漁業などの取組を全国に発信する機会とします。

また、道産水産物をはじめとした世界に誇る「北海道ブランド」の魅力が満喫できる多彩な催しや心のこもった“おもてなし”で道内外からの来場者をお迎えします。

(2) 行事構成

➤ 式典行事

栽培漁業や資源管理、漁場保全など、豊かな海づくりの取組に功績のあった団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者のメッセージや大会決議などを行います。

➤ 海上歓迎・放流行事

漁業関係者の協力を得て、漁船等による海上パレードを行うとともに、次世代へ豊かな海をつなげるため、それぞれが願いを込めて、本道の栽培漁業を代表する魚種の稚魚を放流します。

➤ 歓迎レセプション

大会関係者を招待して、本道の豊かな自然が育んだ高品質で安全・安心な農林水産物などを豊富に使った料理の提供など、心のこもった“おもてなし”でお迎えします。

➤ 関連行事

道内外からの来場者に、本道の特色ある水産業をはじめ、豊かな海づくりにつながる環境保全等に向けた取組や、魅力あふれる「北海道ブランド」などを広く紹介します。

また、大会を記念した絵画・習字コンクールの入賞作品の展示、ステージイベント、物産品販売等を行い、本道の魅力を満喫していただきます。



宮城大会(令和3年)の実施状況

* 写真提供：宮城県

Ⅱ 大会計画

2 大会会場

(1) 基本的な考え方

会場となる施設や敷地の形状、設備、景観とともに、式典行事及び海上歓迎・放流行事を同一施設内で開催する利点を最大限に活かし、すべての来場者に安全・安心で快適な空間と豊かな海を実感していただけるような会場づくりを計画します。

(2) 会 場

➤ 式典行事 《 厚岸漁港 屋根付き岸壁特設会場(厚岸町) 》

道内屈指の規模を誇る屋根付き岸壁背後を活用した特設会場にて式典行事を行います。

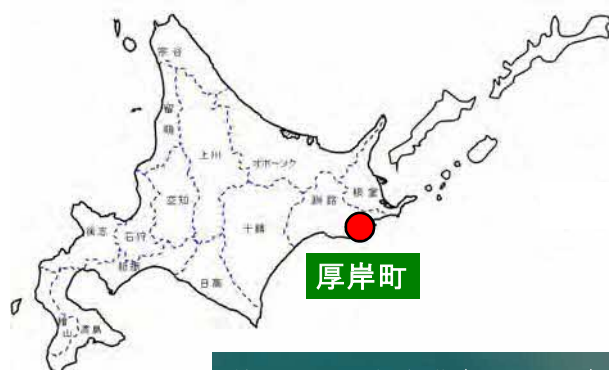
➤ 海上歓迎・放流行事 《 厚岸漁港(厚岸町) 》

厚岸湾や大黒島を臨む風光明媚なロケーションを活かし、式典行事会場に隣接する岸壁と水域を利用して海上歓迎行事と放流行事を行います。

➤ 関連行事 《 厚岸町ほか(検討中) 》

本道の水産業や豊かな海づくり活動に関する企画展示やステージイベント、ふれあい体験、物産販売エリアなどで構成し、北海道の魅力を発信する会場づくりを行います。

《 会場位置図 》



【関連行事会場】

厚岸町ほか(検討中)

【式典行事会場】

厚岸漁港(特設会場)

【海上歓迎・放流行事会場】

厚岸漁港

第3種 厚岸漁港(湖南地区)



Ⅱ 大会計画

3 会場配置

■ 式典行事

(1) 基本的な考え方

会場となる厚岸漁港屋根付き岸壁の施設形状、空間、設備を最大限に活かして、ステージや招待者席などを配置します。また、安全・安心に配慮するとともに、すべての来場者が快適と感じられるような空間とします。

(2) 会場配置イメージ

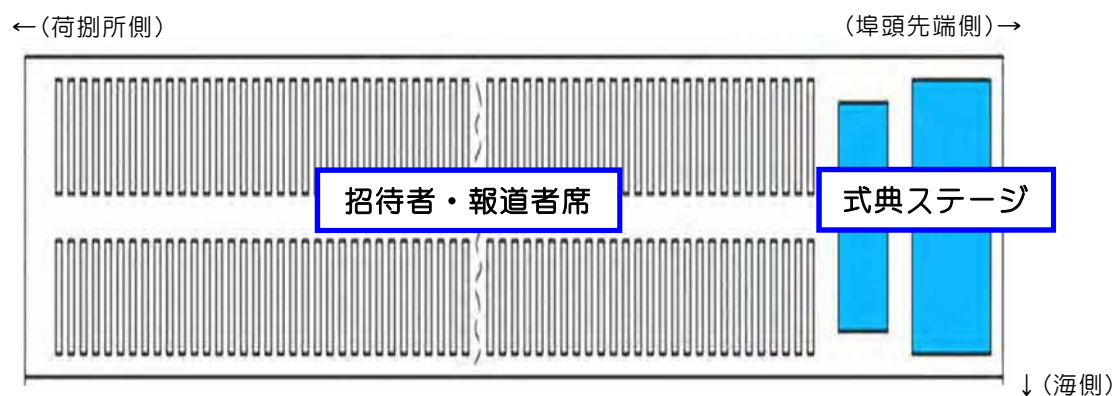
【厚岸漁港 屋根付き岸壁施設】



厚岸漁港〔屋根施設の概要〕

構造	鉄骨造 平屋建
施設面積	10,768 m ² (延長) 403 m (幅) 35 m
施設高さ	(海側) 12.0 m (陸側) 5.5 m

【会場イメージ】



※詳細な配置計画は、実施計画で作成します。



厚岸漁港屋根付き岸壁
〔式典会場〕



宮城大会(令和3年)の
実施状況

*写真提供：宮城県

Ⅱ 大会計画

3 会場配置

■ 海上歓迎・放流行事

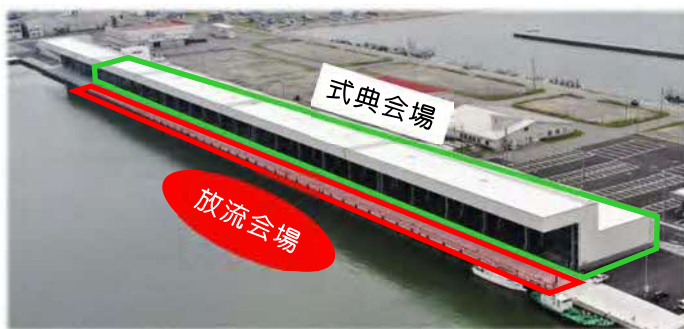
(1) 基本的な考え方

漁業活動や海の豊かさを実感できる厚岸漁港のロケーションを活かし、海上歓迎行事と放流行事を開催します。また、式典行事会場に隣接していることから、できるだけ多くの招待者の皆さまに参加していただきます。

なお、御放流所は、御放流の様子が招待者及び報道関係者から見やすいように設置します。

(2) 会場配置イメージ

【厚岸漁港 屋根付き岸壁施設】



厚岸漁港屋根付き岸壁
〔放流会場〕

【会場イメージ】



御放流所

招待者放流所

※詳細な配置計画は、実施計画で作成します。

(3) 御放流所

御放流所は、周辺の景観を損なわないように配慮しながら、万一の風雨の影響を最低限に抑えられる形状とします。また、御放流所の材料は、環境に配慮するとともに、可能な限り道産木材を用いることとします。



宮城大会(令和3年)の放流行事会場

*写真提供：宮城県

Ⅱ 大会計画

4 行事計画

(1) 基本的な考え方

各行事のタイムスケジュールに従い、招待者及び来場者の移動がスムーズに行えるよう、安全面・機能面を十分に考慮した計画とします。

式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場を同一会場で行う利点を活かし、豊かな海づくりを実感できる一体感のある演出を行います。また、大型映像装置を活用した映像中継などを行います。

(2) 行事スケジュール

行 事		式典行事	海上歓迎・放流行事	関連行事	歓迎レセプション
会 場		厚岸漁港 [特設会場]	厚岸漁港	厚岸町ほか (検討中)	(検討中)
第1日目	9:00	総 合 リハーサル	総 合 リハーサル	関連行事 ・企画展示 ・ステージイベント ・ふれあい体験 ・物産販売	絵画・習字作品御覧 歓迎レセプション
	17:00				
第2日目	10:30	開 場 プロローグ	海上歓迎 放流行事	関連行事 ・企画展示 ・ステージイベント ・ふれあい体験 ・物産販売	
	12:00	式典行事			
	15:00				
	17:00				

※行事構成及び詳細な時間は、関係機関等と協議の上、実施計画で作成します。

Ⅱ 大会計画

4 行事計画

■ 式典行事

厳粛で品位のある進行を基本に、豊かな海や自然を守り続けていくことの重要性を全国に発信する内容とします。

また、これまで豊かな海づくりのために実践してきた栽培漁業や資源管理型漁業、環境保全に向けた新たな取組を紹介し、大会を通じて「豊かな海」を次世代につなぐことを誓う場とします。



大会旗入場



功績団体等表彰



稚魚のお手渡し(※)



大会旗引継

※第40回宮城大会においては、天皇皇后両陛下がオンラインで御臨席されたことから、「大会記念放流稚魚等の御紹介」として行われました。

■ 海上歓迎・放流行事

本道の代表的な漁法紹介（漁船による海上パレード）などで招待者を歓迎します。また、海への感謝の心を育み、「豊かな海」を次世代につなげるため、思いを込めて稚魚の放流を行います。



稚魚の放流



漁船パレード

*写真提供：宮城県

Ⅱ 大会計画

5 演出計画

■ 式典行事

進 行	内 容 ・ 出 演 者 等
プロローグ	北海道紹介映像、伝統芸能等
御臨席	御先導：北海道知事
大会旗入場	旗 手：道内高等学校生徒 等 先 導：鼓笛隊 等
開会のことば	北海道漁業協同組合連合会代表理事会長
国歌演奏	吹奏楽 等
主催者あいさつ	全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長） 北海道実行委員会会長（北海道知事）
歓迎のことば	厚岸町長
天皇陛下のおことば	
表彰（功績団体等）	全国豊かな海づくり大会会長賞 農林水産大臣賞 環境大臣賞 水産庁長官賞 北海道知事賞
最優秀作文の発表	全国豊かな海づくり大会会長賞の受賞者代表
稚魚のお手渡し	お受取：水産関係者 介添え：道内高等学校生徒 等
海づくりメッセージ	漁業後継者等によるメッセージ
大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長 （全国漁業協同組合連合会代表理事会長）
大会旗引継	北海道知事から大分県知事（次期開催県）へ引継
次期開催県あいさつ	大分県知事
閉会のことば	北海道議会議長
御退席	御先導：北海道知事

■ 海上歓迎・放流行事

進 行	内 容 ・ 出 演 者 等
歓迎演奏	吹奏楽 等
会場御着～御放流所へ御移動	御先導：北海道知事
海上歓迎	漁船等による漁法紹介（海上パレード）
第1回放流	介添え者：道内高等学校生徒 等
第2回放流	介添え者：道内高等学校生徒 等
御放流所から御移動～会場御発	御先導：北海道知事

※演出計画は、関係機関等と協議の上、調整・決定します。

Ⅱ 大会計画

6 放流魚種

(1) 御放流魚種（海上歓迎・放流行事で放流）

マツカワ

- ・主に北海道太平洋沿岸に分布し、全長 50～80cm に達する大型のカレイで、刺網や定置網などで漁獲されている。一時は漁獲量が極端に減少し「幻の魚」と呼ばれていた。
- ・本道では、資源増大を目指して、北海道栽培漁業センター（伊達市）及びえりもセンター（えりも町）を整備し、平成 18 年より両施設で年間 100 万尾の種苗生産と漁業関係者による放流を行っており、漁獲量が着実に増加している。
- ・えりも以西太平洋海域の漁業者は、資源管理協定を締結して全長 35cm 未満の個体の資源保護に取り組んでいる。
- ・「王蝶（おうちょう）」のブランド名で、主に刺身や寿司ネタにされる高級魚であり、味はカレイ類の中でも最上級とされている。



ホッケイエビ

- ・主に北海道太平洋とオホーツク海沿岸の内湾のアマモ、スガモなどが茂る藻場に生息する。本道では野付湾、サロマ湖、能取湖、厚岸湖、宗谷湾などが主な漁場であり、漁期は 6～11 月。代表的な地方名称はホッケイシマエビ。
- ・厚岸漁業協同組合えびかご漁業班では、資源増大を図るため、漁期の短縮など、漁業者自らが資源管理を実践するほか、ブランド化にも取り組んでおり、2012 年度開催の第 18 回全国青年・女性漁業者交流大会「資源管理・増殖部門」において農林水産大臣賞を受賞した。
- ・根室管内野付湾でのホッケイエビ漁の歴史は古く、風力で網をひく「打瀬網漁」は明治時代から行われている。
- ・塩ゆでしたときに旨みが引き出されることから、初夏から夏の漁期にゆでたてを食べるのが一番とされている。



* 写真提供：（地独）北海道総合研究機構

Ⅱ 大会計画

6 放流魚種

(2) お手渡し魚種（式典行事会場で手渡され後日放流）

✚ <u>ホタテガイ</u> ・全国一の生産量を誇り、本道の漁業生産の3割以上を占める重要な魚種である。品質は国際的にも高い評価を得ており、日本を代表する輸出水産物となっている。 ・オホーツク海では、毎年約30億粒の稚貝を放流する「地まき漁業」、噴火湾や日本海では、稚貝を入れた籠などを海中に吊す「垂下式養殖」による生産が行われている。どちらも技術的に確立されており、種苗の安定確保や生残率の向上など、生産の安定化に向けた取組が進められている。	
✚ <u>マガキ</u> ・本道のサロマ湖や厚岸湖では、以前から天然ガキの生息が知られ、明治の初めころから漁業が行われていた。本道のカキ養殖は、昭和10年ごろから宮城県産の種苗を用いた「垂下式養殖」が始まり、現在に至っている。 ・厚岸町では、平成10年度に国内初となるシングルシード方式の種苗センターを建設し、地場の種苗を用いた養殖に取り組んでいる。	
✚ <u>エゾバフンウニ</u> ・北海道の全沿岸域に分布し、船上から「箱めがね」で海底を見ながら「たも」や「かぎ」を使ってとる漁法が一般的である。 ・昭和60年代に種苗生産技術が開発され、近年は、道内各地の施設で種苗生産が行われており、毎年約4,500万粒の種苗が放流されている。 ・北海道漁業調整規則による制限のほか、各漁協が自主的に操業期間や総水揚げ量の制限、禁漁区を設定するなど、資源管理に取り組んでいる。	
✚ <u>マナマコ</u> ・古くから干しナマコに加工され、中国等に輸出されている。近年は中国の需要拡大に伴い、輸出が伸びている。 ・DNA標識を用いた放流技術開発や静穏域を活用した中間育成手法の開発・普及などにより、近年は毎年約700万個の種苗が放流されている。 ・北海道漁業調整規則による制限のほか、各漁協が自主的に操業期間や漁獲サイズを制限するなど、資源管理に取り組んでいる。	

* 写真提供：（地独）北海道総合研究機構

Ⅱ 大会計画

7 関連行事

(1) 基本的な考え方

本道水産業の特色や環境保全の活動のほか、本道の「食」や「観光」など魅力あふれる「北海道ブランド」を道内外に発信することを目的とした関連行事を開催します。水産業に関する企画展示やステージイベント、ふれあい体験、物産エリアなど、来場者に親しみやすい内容とします。

(2) 行事計画

➤ 企画展示エリア《パネル展示・映像で紹介》

本道水産業の特色や漁法の紹介、放流魚種の展示、環境保全や栽培漁業に関する取組など、豊かな海を守り育て次世代につなげていくことの大切さなどを広く発信する構成とします。

➤ ステージイベント

式典行事や海上歓迎・放流行事の映像中継により、各行事との一体感を醸成するとともに、伝統芸能などのアトラクションを展開し、多くの方々に楽しんでもらえるような構成とします。

➤ ふれあい体験エリア

魚のタッチングプールなど海の生き物と触れ合えるコーナーなど、体験を通して、豊かな海づくりの大切さを楽しんで学べる構成とします。

➤ 物産販売、観光など「北海道ブランド」PRエリア

本道の水産物や多彩な地場産品を広くアピールし、北海道の食文化を楽しんでいただくとともに、観光や文化など魅力あふれる「北海道ブランド」をPRする構成とします。



過去大会での実施状況

*写真提供：秋田県、宮城県

Ⅱ 大会計画

8 映像中継計画

(1) 基本的な考え方

式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場、関連行事会場において、一体感のある演出を行うため、大型映像装置等を活用した映像中継を行います。

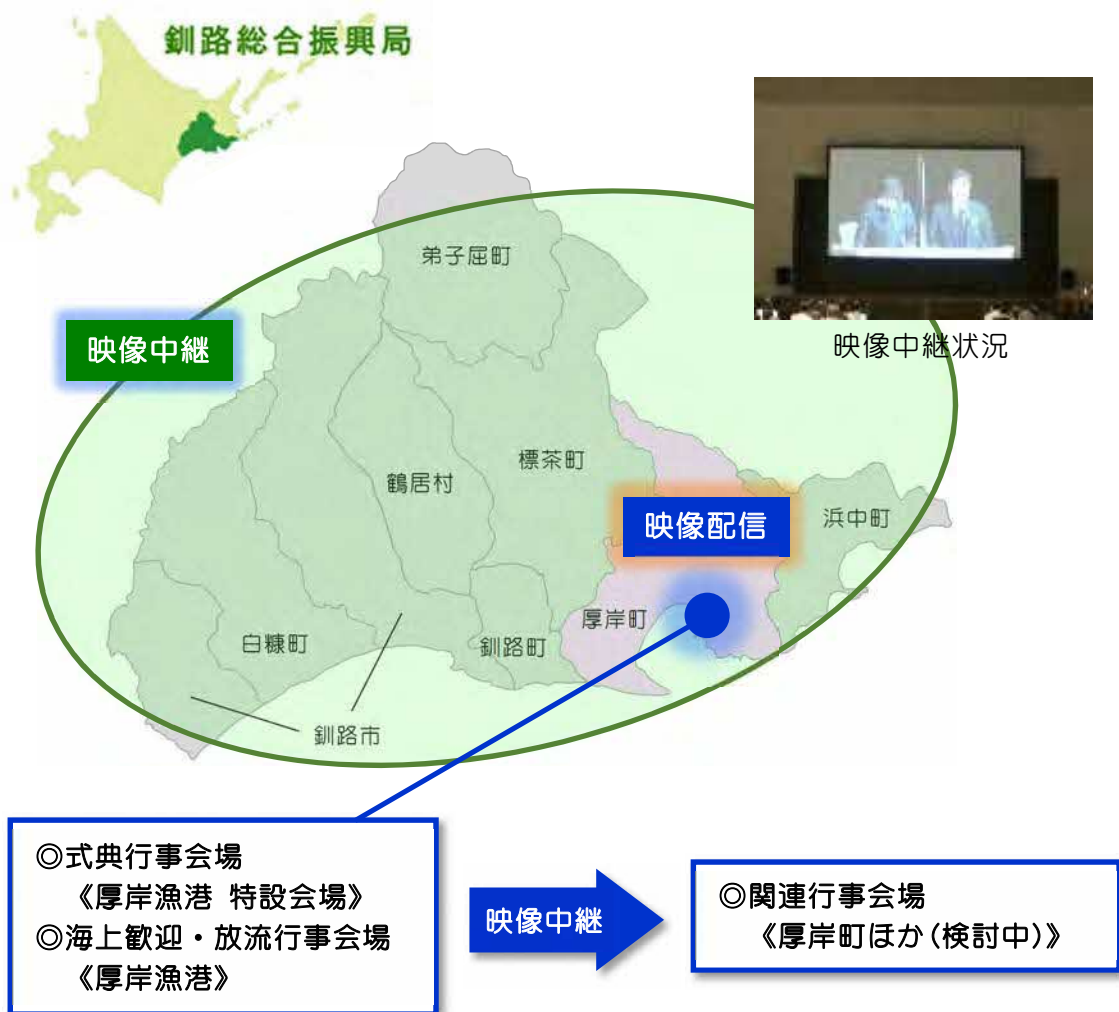
➤ 式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場 《厚岸漁港(厚岸町)》

会場に大型映像装置を設置し、式典の演出や進行、天皇皇后両陛下の御放流の様子など、必要な映像の放映を行います。

➤ 関連行事会場 《厚岸町ほか(検討中)》

来場者に大会の模様を御覧いただけるように、式典行事及び海上歓迎・放流行事の映像を中継します。

(2) 映像中継イメージ



* 写真提供：宮城県

Ⅱ 大会計画

9 絵画・習字優秀作品御覧

(1) 内 容

全国豊かな海づくり大会を記念して、道内の児童・生徒を対象に絵画・習字コンクールを実施し、優秀作品を御覧いただきます。

(2) 次 第

進 行	内 容 ・ 出 演 者 等
御 着	御先導：北海道知事
絵画・習字優秀作品御覧	御説明：北海道教育委員会教育長 受賞者：北海道知事賞（絵画部門・習字部門）
御 発	御先導：北海道知事



過去大会の実施状況

* 写真提供：秋田県

Ⅱ 大会計画

10 歓迎レセプション

(1) 内 容

大会前夜に歓迎レセプションを開催し、北海道の海で獲れた魚介類をはじめとする、本道の農林水産物を豊富に使用した自慢の「食」の提供など、心のこもった“おもてなし”でお迎えします。

(2) 次 第

進 行	内 容 ・ 出 演 者 等
御 着	御先導：北海道知事
開宴のことば	北海道副知事
主催者あいさつ	北海道知事
乾杯	全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長）
御懇談	
御退席	御先導：北海道知事
御歓談	
終宴のあいさつ	北海道議会議長



過去大会の実施状況

* 写真提供：秋田県

Ⅱ 大会計画

11 大会運営計画

(1) 基本的な考え方

すべての来場者の安全を確保するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、心のこもったサービスを提供します。

大会を円滑に推進するため、関係機関及び関係団体との綿密な情報交換・調整を行うなど準備に万全を期します。

(2) 計画概要

①運営体制

- おもてなしの精神ときめ細やかな心配りのもと、道、関係市町、関係団体が協力し合いながら、来場者の心に残る大会運営に努めます。
- イベントの企画・運営や大会参加者の輸送等については、事業者の専門的能力を活用します。
- 障がい者、高齢者への配慮とともに、環境への負荷を軽減し、「人と環境にやさしい」運営に努めます。

②新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

- 来場者への手指消毒、マスク着用の徹底をはじめ、ソーシャルディスタンスの確保など、感染防止対策を徹底します。

③緊急時対応

- 警察、海上保安庁、消防、医療機関等の関係機関、関係団体との連携を密にし、事故防止や非常時の迅速な対応に努めます。
- 海に面した会場で開催されることを念頭に置き、地震などの災害や悪天候の対応として、情報収集や避難誘導のほか、大会行事の実施等の判断を迅速かつ的確に行える体制づくりを行います。

④道民の参加

- 道民との協働を目指し、会場周辺の美化や各種行事などへの積極的なボランティア参加を呼びかけます。

Ⅱ 大会計画

12 宿泊輸送等計画

(1) 宿泊等基本方針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会 宿泊等基本方針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会に参加する招待者及びその他大会関係者（以下「大会参加者」という。）に対し、安全かつ快適な宿泊施設や食事を提供するものとする。

1 宿泊施設

- (1) 大会参加者が利用する宿泊施設は、旅館業法の許可を受けて営業を行うホテル、旅館等とし、消防法や食品衛生法等の関係法令を遵守している施設とする。
- (2) 大会参加者が利用する宿泊施設は、原則として釧路総合振興局管内の施設とする。

2 配 宿

- (1) 配宿は、できる限り大会参加者の希望に応じて対応する。
- (2) 大会参加者の利便性、都道府県別、参加区分、男女別等に配慮して配宿する。

3 宿泊料金

参加者の宿泊料金は、宿泊施設の内容を勘案し、段階別料金を設定する。

4 食事

宿泊施設で提供される食事及び大会中に提供される弁当等は、衛生的で栄養バランスがとれ、地元食材を取り入れた郷土色豊かなものとなるよう配慮する。

5 新型コロナウイルス感染症対策

来場者への手指消毒、マスク着用の徹底をはじめ、ソーシャルディスタンスの確保など、大会参加者等の感染防止対策を徹底する。

Ⅱ 大会計画

12 宿泊輸送等計画

(2) 輸送基本方針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会 輸 送 基 本 方 針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会に参加する招待者及びその他大会関係者及び一般来場者（以下「大会参加者」という。）の輸送については、関係機関・団体等の協力を得て、交通及び道路の状況に十分配慮しながら輸送体制を確立し、安全かつ確実に輸送を実施するものとする。

- 1 来道時及び離道時の輸送
自由集合、自由解散とする。
- 2 大会開催日等の輸送
 - (1) 招待者の輸送
 - ① 指定宿泊施設を利用する者については、原則として、当該宿泊施設から会場までの区間についてバスによる計画輸送を行う。
 - ② 指定宿泊施設を利用しない者については、原則として、指定集合地から会場までの区間についてバスによる計画輸送を行う。
 - (2) その他大会関係者の輸送
その他大会関係者については、バスによる計画輸送または公共交通機関による輸送を行う。
 - (3) 一般来場者の輸送
一般来場者の輸送については、バスによる計画輸送または公共交通機関による輸送を行う。
 - (4) その他
会場への車両の乗り入れについては、大会参加者の交通安全の確保と会場周辺の混雑緩和を図るため、周辺における道路交通事情及び駐車場の状況に応じて必要な制限を行う。
- 3 車両及び駐車場の確保
 - (1) 計画輸送に必要な車両については、十分に確保し、効率的な利用を図る。
 - (2) 駐車場については、可能限り確保に努め、効率的な利用を図る。
- 4 交通安全対策
大会参加者の交通安全の確保と交通混雑の緩和を図るため、交通規制等の適切な措置を講じる。
- 5 新型コロナウイルス感染症対策
来場者への手指消毒、マスク着用の徹底をはじめ、ソーシャルディスタンスの確保など、大会参加者等の感染防止対策を徹底する。

Ⅱ 大会計画

12 宿泊輸送等計画

(3) 医事衛生基本方針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会 医 事 衛 生 基 本 方 針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会に参加する招待者及びその他大会関係者及び一般来場者（以下「大会参加者」という。）の医事衛生については、関係機関・団体等の協力を得て適切な対策を講じるものとする。

- 1 医療救護
大会参加者の傷病発生に対処するため、応急措置及び医療機関への搬送等を行うため医療救護体制を整える。
- 2 食品衛生
大会参加者の飲食物の安全を期するため、食品衛生の徹底を図る。
- 3 環境衛生
大会参加者の清潔快適な環境を提供するため、各会場及び宿泊施設の環境衛生の徹底を図る。
- 4 感染症対策
大会参加者等の感染症の発生及びまん延の防止のための防疫体制を整える。

(4) 警備防災基本方針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会 警 備 防 災 基 本 方 針

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会の開催に当たり、災害または事故等の発生を未然に防止し、非常時に迅速かつ適切な措置を行うため、関係機関・団体等の協力を得て、警備防災体制を確立し、安全かつ円滑な大会運営を図る。

- 1 警 備
 - (1) 会場及び会場周辺において、事故や犯罪の発生を防止するため、適正な警備体制を整え、状況に応じた的確な交通整理や誘導・規制を行う。
 - (2) 事故発生時における連絡体制を整え、避難誘導及び緊急自動車の出動に伴う交通整理・誘導等を行う。
- 2 防 災
 - (1) 会場、宿施設等における火災等の予防等を徹底するとともに、避難経路を確保する。
 - (2) 地震・津波等の災害発生時には、適切な避難誘導を行うとともに、必要に応じて迅速な救助・救急要請等を行う。

Ⅱ 大会計画

13 荒天時等計画

(1) 基本的な考え方

荒天時や地震、津波などの災害、火災、その他の突発的事案が発生した場合には、大会行事の開催可否を決定するため、判定会議を開催します。

判定会議は、気象状況や災害、突発的事案の情報収集、整理を行い、専門家の意見を踏まえた上で、実施の可否を判断することとします。

なお、大会行事の実施、変更、中止の判断基準は、実施計画で詳細を定めます。

(2) 荒天時の実施内容

- 判定会議において、荒天や災害、その他の突発的事案の発生により海上歓迎行事の実施が困難であると判断した場合には、荒天時計画（A）に変更し、行事を実施します。
- さらに、放流行事の実施も困難であると判断した場合には、荒天時計画（B）に変更し、式典行事を実施します。
- なお、台風や地震、津波により、招待者や来場者の会場への移動に危険が伴うと判断した場合には、全ての行事を中止します。

行 事 名	荒天時計画（A）	荒天時計画（B）
式典行事	計画どおり実施	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止	中止
放流行事	計画どおり実施	中止

Ⅲ 機運醸成・広報計画

1 機運醸成に向けた取組

(1) 基本的な考え方

大会開催に向け、1年前プレイベントをはじめとする行事の開催を通して、全道的な機運醸成を図るとともに、道内外からの招待客をお迎えするため、地域と一体となった盛り上げりを創出します。

また、稚魚の放流や海浜清掃などの「豊かな海づくり活動」を通じて、子どもから大人までの幅広い道民に環境保全の大切さを理解していただくとともに、大会開催後も本活動が道内全域に定着するよう努めます。

(2) 機運醸成に向けた取組

① 1年前プレイベント・関連イベント

『第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会』1年前プレイベント

本大会の1年前に、開催趣旨の周知と大会の開催に向けた機運醸成を図るため、道内外の招待者や地元の方々の参加のもと、式典行事及び海上歓迎・放流行事会場において、1年前プレイベントを開催します。

なお、本イベントでは、漁船による海上パレードや関係者による稚魚の放流を実施するなど、本大会を検証する機会とします。また、地域のイベントと連携し、子どもから大人まで楽しめる関連行事も行います。

《日 時》令和4年(2022年)秋季(大会期日の約1年前)

《場 所》厚岸漁港

《内 容》(1) アトラクション
(2) 漁船による海上パレード
(3) 稚魚の記念放流
(4) 企画展示 など

『豊かな海づくりフェスタ 2022(仮称)』

道民への開催趣旨の周知と大会の開催に向けた機運醸成を図るとともに、道産水産物の消費拡大及び地場産業の振興を図るため開催される地域イベントと連携し、「豊かな海づくりフェスタ 2022(仮称)」を開催します。

《日 時》令和4年(2022年)秋季

《場 所》厚岸町(厚岸漁港、子野^{ねのひ}公園) など

《内 容》大会PRに関する企画展示、ふれあい体験、物産販売など



兵庫県プレイベント(令和3年)の実施状況

*写真提供：兵庫県

Ⅲ 機運醸成・広報計画

1 機運醸成に向けた取組

(2) 機運醸成に向けた取組

②豊かな海づくりキャラバン

海や魚に関連したイベントや集客力の高いイベントと連携し、機運醸成を図ることを目的としたPR活動を道内全域で継続的に展開するとともに、大会当年度はカウントダウンイベントとしても展開します。

《時 期》 通年（大会開催年まで） 《場 所》 道内全域

③水産資源の保護と教育

ア) 大会記念リレー放流

本道の漁業協同組合及び市町村等の協力のもと、園児・児童等による稚魚の放流を実施します。

《時 期》 4～10月頃（大会開催年まで） 《場 所》 道内全域

イ) 魚食・食育普及活動

子ども達に魚を「見る・触れる・食べる」機会を提供し、魚を身近に感じ興味をもってもらいながら、水産資源の保護、環境教育や家庭での魚食普及を図ることを目的に開催します。

《時 期》 通年（大会開催年まで） 《場 所》 道内全域

④海洋環境保全活動の実施

ア) 海浜清掃の実施

市町村及び漁業団体、企業等と連携し、道民や漁業者参加の海浜清掃活動を実施します。

《時 期》 通年（大会開催年まで） 《場 所》 道内全域

イ) 海洋プラスチックゴミ問題の周知・啓発

海洋プラスチックゴミへの関心・意識を高めるための周知・啓発活動を実施します。

《時 期》 通年（大会開催年まで） 《場 所》 道内全域

⑤海づくり大会協賛行事の募集（令和4年度～）

道内の市町村、企業、団体等が実施する「森・川・海」の環境保全活動や各種イベントなどを大会協賛行事として募集し、豊かな海づくりへの意識向上や水産業に対する理解促進を図るとともに、大会開催に向けた機運を高める取組を連携して行います。

Ⅲ 機運醸成・広報計画

2 広報事業

(1) 基本的な考え方

大会テーマや大会ロゴマークなどを活用しながら、大会関連情報について各種媒体を通じて積極的かつ効果的な広報活動を実施します。

(2) 広報事業

①「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～^{みけつくに}御食国ひょうご～」への参加

- 兵庫県で開催される「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」（令和4年11月12・13日）に参加し、大会招待者などへ次年度開催の周知を図るとともに、道産水産物をはじめとする本道の魅力をPRします。

②大会テーマ、大会ロゴマーク等を活用した広報

- 公募により決定した大会テーマの普及を図るとともに、大会ロゴマークやご当地キャラクターなどを活用したPR活動を展開します。

・大会テーマ、大会ロゴマーク等を活用した大会PRグッズの作成・配布
・大会ロゴマークがデザインされたコスチュームを身にまとったご当地キャラクター等を活用した各種イベントでのPR など

③印刷物による広報

- 各種印刷物や既存の広報誌などを活用した広報活動を展開します。

・大会公式ポスター、リーフレットの作成・配布
・道、市町村等の広報誌の活用 など

④多様なメディアによる広報

- 報道機関への情報提供やインターネットなどの多様なメディアの活用により、大会に関する情報を迅速かつ広域的に発信します。

・道の広報番組（テレビ、ラジオ）等の活用
・大会ホームページ、SNSでの情報発信

⑤コンクール実施による広報

- 豊かな海づくり大会推進委員会との共催により、作文・絵画・習字のコンクールを行い、大会の開催趣旨などを広く啓発します。

⑥屋外広告物等による広報

- 懸垂幕や横断幕、カウントダウンボードなどの設置により、大会の開催について広く周知します。

⑦大会記念誌等の制作

- 開催までの取組や大会当日の模様を記録し、大会記念誌及び記念映像を制作します。

Ⅳ 実施スケジュール

年度	月	大会開催計画	機運醸成・広報計画
3年度	2		
	3	基本計画決定	
4年度	4	実施計画の検討	豊かな海づくりキャラバン・カウントダウンイベント 道内企業・団体等による大会協賛行事の募集・実施 大会記念リレー放流・環境保全活動の実施
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		
5年度	4	大会実施本部の設置 運営マニュアル作成	ホームページ・ポスター等によるPR 1年前プレイベント 兵庫大会でPR 大会公式ポスター作成 大会記念作品募集 (作文・絵画・習字) 100日前イベント
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		

第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会



【 北海道大会ロゴマーク 】

第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会

〔事務局〕

北海道水産林務部水産局水産振興課

〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111（代表）（内線 28-262）

FAX 011-232-1578